

サテライト横浜カップ サンケイスポーツ杯争奪戦

8/28(水) 29(木) 30(金)

FI

ナイター
開催

川崎スポーツ



レース展望

8月28日から開催される川崎競輪はサテライト横浜カップ・サンケイスポーツ杯争奪戦として行われるFIナイター。S級・A級ともに東日本は北日本・関東・南関の三地区、西日本は中部・近畿の二地区で構成される。

本来ならシリーズの中心となるのはホームバンクの松谷秀幸(96期)であるが、直前の平塚オールスターでは2次予選で落車・欠場の憂き目に遭い、病状は右第二指骨折疑い。参戦ならいつも通り気合満点の走りを見せてくれそうだが、日にちがあまりなくどこまで立て直しているか。同じく地元勢で活躍が期待されるのは松谷と同門の佐々木龍

(109期)で神奈川二枚看板となり、今期はS級2班ながらタテヨコ何でもの走りで各地で好走している。現状では初日特選組と変わらぬ成績・脚力を維持していて、南関の機動型である道場晃規(静岡117期)と好連係を決めてくれそう。北日本ではベテランマーカ成田和也(福島88期)が衰え知らずのキメ脚を発揮するが、ラインの自力型がやや手薄であり、目標が無ければ強気にさばいて見せ場を作っていくだろう。関東勢は栃木コンビが強力、カマシ・捲り鋭い長島大介(96期)が強烈なスピードを武器に久々のV奪取を目論み、同県で追加出走となっ

た神山拓弥(91期)とワンツーを目指す。A級戦は今開催も実力差があまり無く、初日特選組なら誰にでも優勝チャンスのあるメンバー構成となった。石川から千葉に移籍して久しい栗田万生(111期)は現在も徹底先行を貫き通し、同県の自在型栗本尚宗(113期)とワンツーを狙い、関東では追込型に戦法転換してから抜群の安定感を誇る今井聡(東京113期)がゴール前強襲を見せる。中部のオールラウンドプレイヤー北野良栄(愛知95期)や近畿の積極先行吉堂将規(奈良115期)ももちろんV圏内の脚力を持っている。

主力互角でV争いは激戦必至！！

S級
主力選手



松谷秀幸 神奈川 96期

プロ野球で戦力外通告を受け、サラリーマンも経験した苦労人。コツコツと実績を重ね今年はGI初優出も果たし、競輪選手として一流の活躍を見せる。すっかり追込み選手として定着して、堅実なマークから鋭い差脚を発揮する。地元ホームで気合は十分入る。

S級
主力選手



成田和也 福島 88期

北日本を代表するマーク選手。タイトルホルターでもあり、数々の実績を残している。機動型からの信頼は厚く、成田が付くことでラインが強力になる。状態と展開が噛み合えばまだまだGIを狙えよう。今節は北の機動型が手薄なだけに自ら好位をさばく場面も。

S級
主力選手



道場晃規 静岡 117期

前回の平塚オールスターは初のGI挑戦となったが、トップクラスの洗礼を浴びる結果になった。8・6・9着で確定板にも載れず厚い壁に阻まれたが、経験を積みダッシュとスピード生かした自力は通用するはず。今シリーズはその鬱憤を晴らしていきたい。



A級
注目選手

栗本尚宗 千葉 113期

前期はS級を経験したが、またA級から出直しとなった。多少の自在性も持ち、「また挑戦者のつもりで動けるときはしっかり動いて行きたい」と話す通り、攻めの走りをしている。まだ結果は物足りないが、今シリーズも南関の先導役として躍動するだろう。



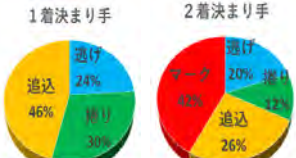
A級
注目選手

北野良栄 愛知 95期

元プロ野球選手でS級でも活躍したが昨年からA級降級。しかし40代になったいまでも、自力基本の組み立てで安定した走りを見せる。前々回は平塚でオール連対のV、前回の地元戦も連勝で決勝進出するなど絶好調。今節も中部ラインの中軸として活躍するか。

川崎競輪場バンクガイド (2023年10～12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したものなので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えて、自力型のアタマから組み立ていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回ってくるようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル